

平成 19 年 12 月 6 日
熱 海 市

「熱海市観光基本計画（熱海市の観光ビジョン）」の策定について

熱海市では、観光まちづくりという視点から観光基本計画を初めて策定いたしました。計画策定は、熱海の持つ可能性や地域資源、特性を最大限に活かすとともに、熱海のみちづくりや魅力づくりを来訪者の視点からもう一度捉え直し、観光業に従事する方だけでなく、市民・住民そして行政からなる街全体の総合力を発揮して、観光交流をさらに推進し集客力を高めていくことを希求したものです。

熱海にかかわるすべての方が一体となって魅力的なまちを創造していく共通目標・指針として、この「熱海市観光基本計画」を位置付けます。

1. 熱海の目指すべき将来像

長期滞在型の世界の保養地

－ 心と体を回復させる 現代の湯治場「熱海」－

熱海観光の原点である「温泉」にもう一度光をあてながら、時代と社会のニーズの変化に合わせ、長期滞在が楽しめ、何度来ても新しい発見と癒しを体験できる、市民そして観光客にとって満足度の高い心と体を回復させる「現代の湯治場」という世界に開かれた保養地づくりを目指す。

- | | |
|--------|--|
| □ 計画期間 | 2017 年までの 10 年間 |
| □ 基本目標 | (1) 宿泊客数 330 万人（2006 年度 293 万人）
(2) 連泊率 7%（2006 年度 5%）*1
(3) 市内経済効果 1,000 億円（2005 年度 881 億円）*2 |

*1 主要インターネット予約サイト 2 名以上利用連泊率

*2 熱海市産業連関表等による推計

2. 実現のための4つの柱

I 温泉中心主義 - 湯治場「熱海」の復権 -

熱海は大正期の熱海線乗り入れを契機に、それまでの湯治場から大衆温泉観光地へ大きく変貌を遂げたが、同時にこの頃から熱海の主役であるべき「温泉」が脇役に回ってしまった。熱海の湯治場としての歴史をさかのぼり、温泉情緒あふれる景観や温泉文化を再生させるとともに、時代のニーズに合わせた魅力を付加し、現代の湯治場を提案していく。

熱海の最大の資源である「温泉」にもう一度光をあて、熱海温泉の歴史・文化を再検証とあわせて、「芸妓」や「食」、「文学」など温泉があることにより生み出された熱海独自の文化の確立・再生を進める。

また、温泉の科学的な分析や健康・美容に対する効果などを検証・活用するとともに、外湯めぐりの推進や温泉場らしい景観の整備、商店街・街並みの整備、外湯施設の整備を進め、気軽に温泉情緒にふれることのできる環境整備を進める。

II もう一度行きたくなる街 - 満足度アップの仕組みづくり -

国内外からの観光客が欲しいときにいつでも熱海の情報を得られる環境、行きたいときに容易にアクセスできる環境、そして滞在して自分にあった楽しみ方を満喫できる環境づくりを進め、観光客が連泊して熱海に滞在し、また一度来た観光客が「また来たい」と思っていたくための、満足度アップを目指した取り組みを進める。

長期滞在型の保養地を目指して、滞在型プログラムの開発・提案を進めるとともに、顧客満足度向上のためホスピタリティ研修の充実や宿泊施設等の魅力向上に資する施策や、熱海らしいイベント展開や「食」によるブランドづくり、「花」や「光」を活かした取組、「新たなエンターテインメント」の創出など、近隣観光地と連携しながら、観光客のニーズを捉えた事業展開に努め、何度来ても楽しめる観光地づくりを進める。

また、「鉄道」、「車」による熱海へのアクセス向上を目指した取組を進めるとともに、富士山静岡空港開港・羽田空港再拡張を見据えた新しいルート開発や富士箱根伊豆の海の玄関口としての熱海港の整備などを進める。同時に、観光客のアクセスルートやターゲット層に合せたパブリシティ展開についても総合的に検討していく。

さらに、世界の保養地づくりを目指し、外国人観光客の積極的な誘致・受入態勢の整備を進めるとともに国際的なコンベンションシティづくりを関係機関と協力しながら進めていく。

Ⅲ 歩いて楽しい温泉保養地 - 経済効果の各業界への拡大 -

市内の観光施設、保養施設、商店街、飲食店などをつなぎ、回遊ルートを整備する。このことにより観光客のもたらす経済効果をホテル・旅館業以外の業界へも拡大させていく。また、同時に市民にとっても恩恵のある施設整備を進める。

観光客や市民がふれあい、街を歩いて楽しめる保養地を目指して、まちのグランドデザイン・まちづくりビジョンと連携しながら各地域の個性を活かした景観形成を進めるとともに、魅力ある景観スポット・フォトスポットの整備を進める。

また、地域にある観光資源を市民と一緒に掘り起こし活用していくとともに、商店街での賑わいづくり、市内に点在する歴史・文化資源の活用、ウォーキングやマリンスポーツの推進や各地域の特色を活かした地域資源を活かした取組を進め、観光客に歩いて楽しいルートを提案し、まちの賑わいを創出していく。

あわせて、歩行空間の整備、公園の整備、海岸線の整備と市内回遊性の向上などの施策を展開するとともに、環境や観光客の安全に十分配慮した観光地づくりを進める。

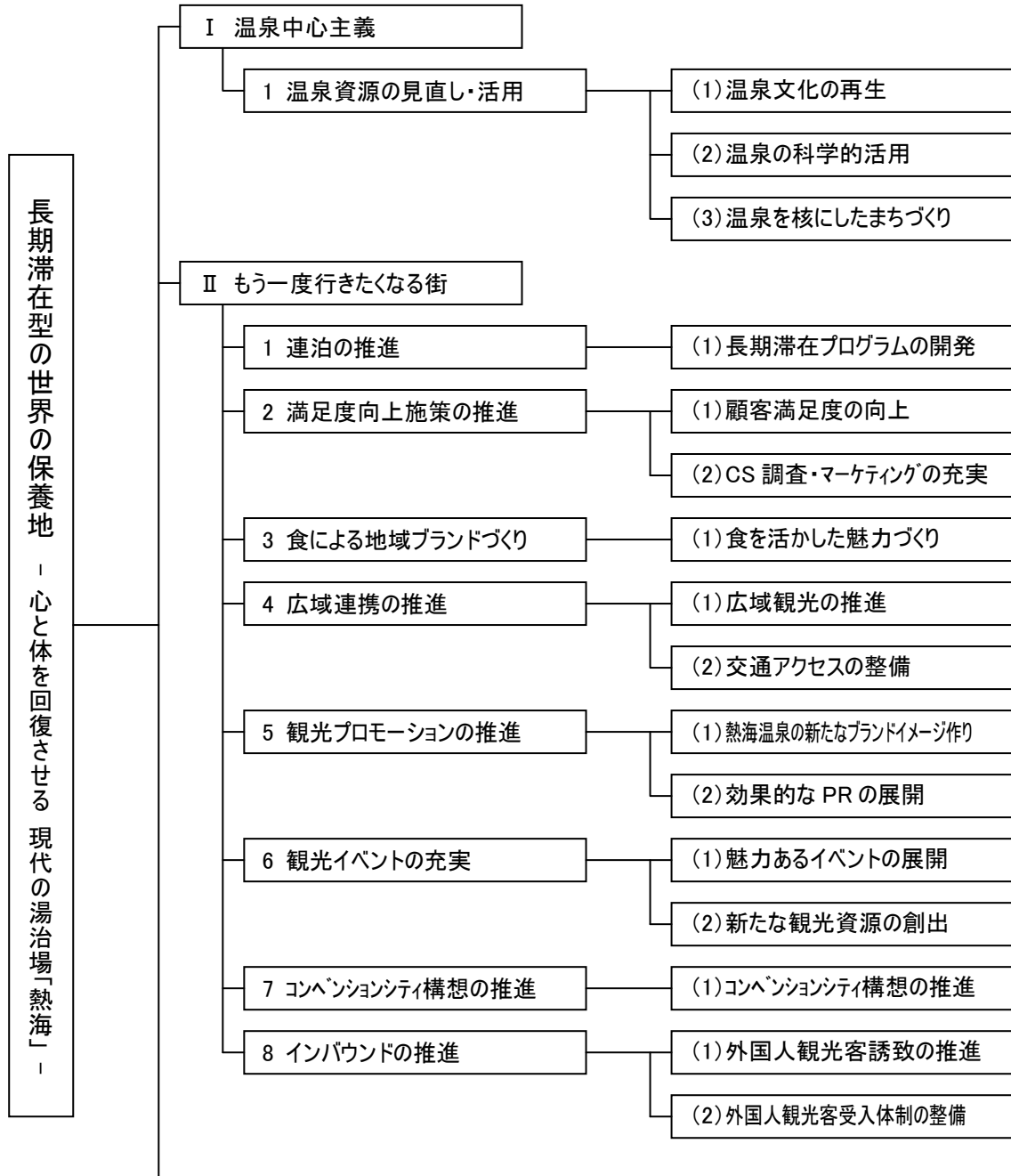
Ⅳ 全員参加のまちおこし - 総合的な観光事業の実施 -

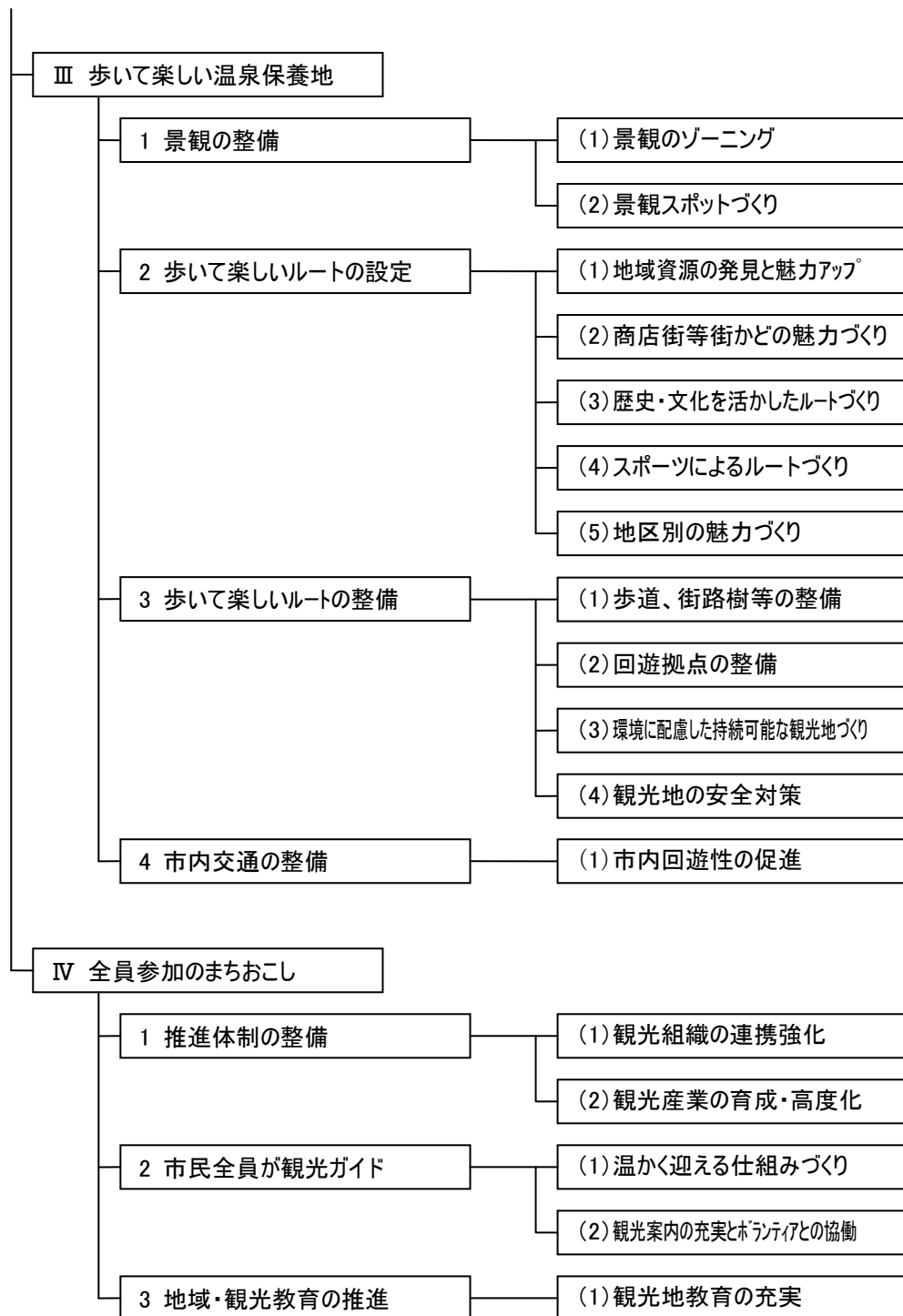
市役所、観光協会、旅館組合など、現在観光施策を実施している機関の協力・連携を強化し、熱海の発信するメッセージの統一と予算の効率的・効果的な活用を目指す。また、まち全体で観光客を迎え入れる文化をつくるため、市民に対する啓発活動に力を入れていく。

市民全員が観光ガイドとして、ホスピタリティの向上や観光ボランティアガイドの養成、子どもから大人までの観光地教育の推進を進めるとともに、計画全体を推進する組織の強化に努める。

あわせて、将来的に熱海の観光を総合的にプロデュースし、積極的な誘客推進を図るための一方策として新しい観光組織の在り方について、関係機関と協議しながら実現を目指す。

3. 計画の構成





4. 重点プロジェクト

「長期滞在型の世界の保養地」を目指して施策を展開します。そのうち、重点プロジェクトとしてさまざまな施策を組み合わせ、事業を推進します。計画期間前期にあたる行財政改革期にはソフト事業中心の取組を、後半には凍結された事業の再開、新たな投資的事業の実施により、ハード・ソフト事業両面から観光によるまちづくり、地域づくりに取り組めます。

◆ 郷土湯再発見 [唵瀧館再生・商店街まち並み整備] プロジェクト

熱海発展の中心にあった「温泉」に光をあてることにより、「郷土(熱海)」を再発見する。児童・生徒や市民に温泉をはじめとした熱海観光の基礎知識を普及させるとともに、温泉があることにより生み出された「芸妓」、「食」、「文学」などの歴史・文化を体系化し「熱海文化」を確立する。

また、温泉場としての魅力を高めるため、湯けむりによる演出、足湯・手湯の整備、共同湯やホテル・旅館の日帰り温泉利用による「湯めぐり手形」の導入など、気軽に温泉にふれることのできる環境整備を進めるとともに、明治初期に設置された日本初の温泉療養施設であった「唵瀧館」を再生し、温泉と医療・健康との連携、温泉の種類や効能などの科学的検証を進め、現代版「唵瀧館」を街のシンボルとして創出する。

また、周辺商店街などと協力しながら、大湯間歇泉・湯前神社から七湯周辺を「温泉情緒あふれる街」として街並みの整備を進めていく。

◆ 熱海“開港” [みなと観光夢] プロジェクト

熱海にある都市景観、温泉、周辺観光地へのアクセスの良さを活かし、クルーズ船の誘致や首都圏からの新規航路の開拓などを進めるとともに、サンビーチ～親水公園～熱海港のウォーターフロントの活性化を図り、富士箱根伊豆エリアの新しい海の玄関口としての整備を推進する。

また、鉄道や道路による熱海へのアクセス向上、熱海・箱根エリアの周遊性の向上、インバウンドの推進と受入体制を整備するとともに、情報発信力を強化し、広く国内外に熱海を“開港”する取り組みを進める。

◆ 熱海ロマン [まちなか 1 万歩] プロジェクト

歩いて楽しい街づくりを推進し、観光客の熱海での滞在時間を多くするための取り組みを推進する。そのために、熱海にある観光資源・地域資源を掘り起こし、まちなか全体が博物館であり、毎日が展覧会となるイベント展開と、観光ボランティアの養成・市民のホスピタリティの向上を図る。

また、安心安全で魅力ある歩行空間の創出、観光案内の充実、エリア内交通システムの整備などの環境整備を進める。

併せて、上記重点プロジェクトを推進する組織づくりとして新たなコンソーシアムの検討を進めるとともに、多くの観光客を迎える市民・住民に対する観光地教育の充実を図り、観光客の満足度の高い観光地づくりの基盤整備を進める。

事業展開のイメージ

「長期滞在型の世界の保養地」を目指して

郷土湯再発見 [唹瀧館再生・商店街まち並み整備] プロジェクト

唹瀧館の再生

- ◆ 温泉資源による産業観光
- ◆ 熱海“温泉文化”の確立
- ◆ 温泉表示システムの整備
- ◆ 新しい湯治スタイル提案
- ◆ 共同浴場の活用
- ◆ 湯めぐり手形の発行
- ◆ クアハウス・スポーツリハビリ
- ◆ 温泉コンベンションの開催
- ◆ 外湯施設の整備

商店街まち並み整備

- ◆ 温泉情緒あふれる街並み整備
- ◆ 湯けむりの演出
- ◆ 足湯・手湯の整備

- ◆ ガイド養成
- ◆ 温シェルジェ支援
- ◆ 温泉講座実施
- ◆ 熱海温泉文化検定

- ◆ 温泉技術の交流
- ◆ 温泉排水環境対策

温泉



熱海“開港” [みなと観光夢] プロジェクト

熱海観光港の整備

- ◆ 熱海港の整備
- ◆ ウォーターフロントの整備
- ◆ クルーズ船の誘致
- ◆ 親水性イベントの開催
- ◆ 首都圏からの航路開拓
- ◆ 熱海駅舎・広場整備
- ◆ 熱海・箱根間アクセス改善
- ◆ 湘南ライナー等乗り入れ
- ◆ 高規格道路の整備

熱海プロモーション強化

- ◆ 主要駅での情報発信
- ◆ SA・道の駅での情報発信
- ◆ キャンペーン・パブリシティ強化
- ◆ 羽田・静岡空港からのアクセス整備
- ◆ 国際コンベンション誘致
- ◆ 外国人観光客誘致推進
- ◆ ウェルカムカード導入

海

熱海ロマン [まちなか1万歩] プロジェクト

まちなか1万歩プロジェクト

- ◆ 熱海観光学(歴史・文化・食など)開催
- ◆ 「熱海ごはん」「伊豆ごはん」
- ◆ 観光客参加型イベント
- ◆ 夜も楽しめるまちづくり
- ◆ まちあるきマップの整備
- ◆ まちかどエンターテイメント
- ◆ ウォーキングイベント(熱海・箱根ツーデーウォーク)
- ◆ 湯めぐり手形の発行
- ◆ 熱海らしいイベント創出
- ◆ 歩行空間の整備
- ◆ 花木によるまちづくり推進
- ◆ 都市公園の魅力アップ
- ◆ 坂道を活用したスポットづくり
- ◆ 海岸線ウォーキングロード整備
- ◆ エリア内交通システムの整備

- ◆ ガイド養成
- ◆ 温シェルジェ支援
- ◆ まちのコンシェルジェ
- ◆ ホスピタリティ研修

歩く

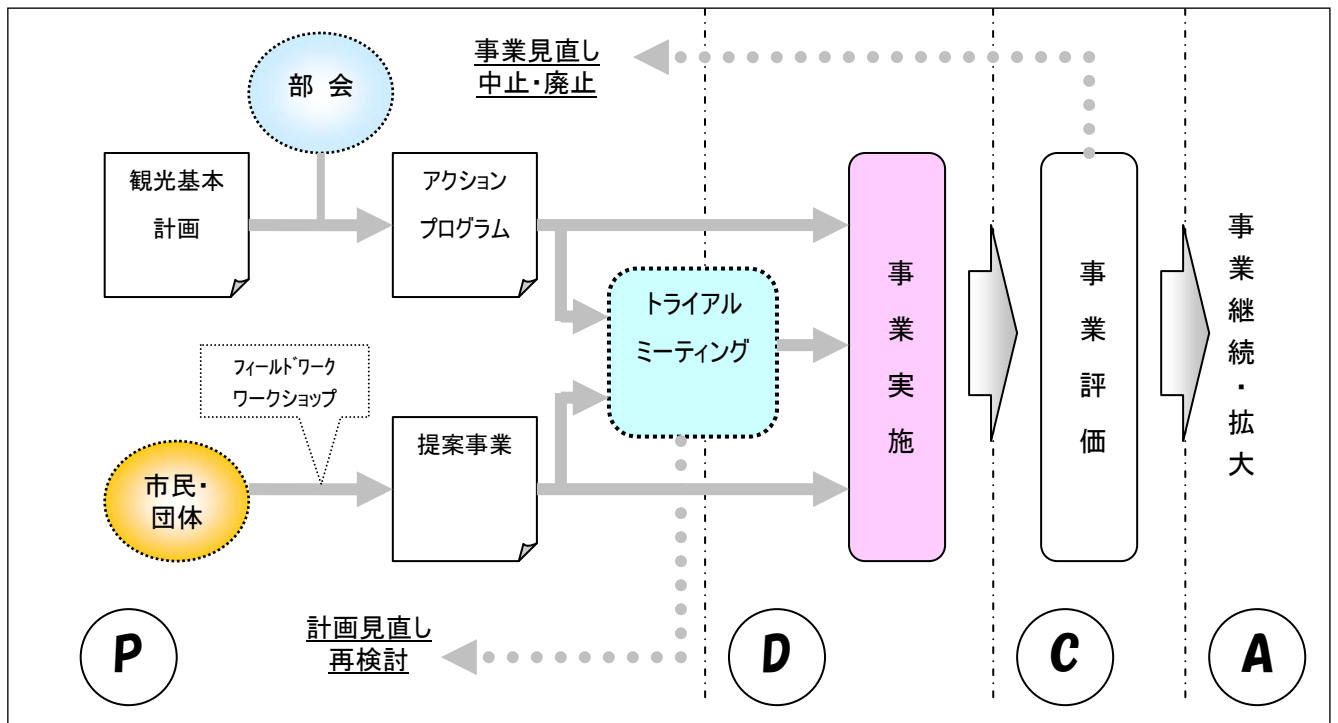
コンソーシアム(組織)の検討 観光地教育の推進 CS 調査・マーケティング調査

5. 今後の取組

「長期滞在型の世界の保養地」を目指し、観光振興を推進するため、策定された観光基本計画を具現化するための取組を進めます。

事業推進のイメージは、観光基本計画のアクションプログラムを策定し、それに基づいた予算化により事業実施を図っていきます。アクションプログラムにより計画された事業は、行政内部の各部署において事業実施するほか、各種団体や市民グループなどとの協力によりトライアルミーティングを実施し、事業の可能性を検討した上で市民・各種団体主体で事業を実施し、それを行政がサポートしていく形を考えています。

また、観光基本計画の考え方に沿って、市民や民間の自主的な取組に対しても、積極的にさまざまなサポートをできる体制作りを整えてまいります。



(1) 観光戦略会議 専門部会の設置

観光戦略会議の下部組織として、当面 3 つ専門部会の設置を予定しています。

- **計画推進部会**：観光基本計画を具現化するためのアクションプログラムの作成、ロードマップの作成を行うとともに、熱海の観光施策をトータル的にプロデュースできる組織づくりの検討を行います。
- **顧客満足度部会**：観光客の満足度向上のための施策の検討、おもてなし研修等の企画・実施、顧客満足度の調査、顧客ニーズの把握を継続的に実施し、情報を提供していきます。
- **イベント検証部会**：イベントの効果測定方法の研究を進めるとともに、イベント実施による費用便益分析を行うとともに、熱海らしいイベントの創出について研究していきます。

(2) ワークショップの活用

◇ 観光資源棚卸ワークショップについて

平成 19 年 9 月から 11 月に全 3 回の「観光資源棚卸ワークショップ」を開催しました。ワークショップでは熱海の各地区にある地域資源を再認識し、また掘り起こす作業を進めることにより、その成果を観光基本計画推進のために活用していきます。また、この作業を行うことにより地域住民が観光とまちづくりについて議論する場を通して、地域資源への理解や観光に対する意識の醸成を図ろうとするものです。

今回のワークショップには延べ 100 人の参加を得て、500 を超える地域資源の抽出を行い、その中で各地域がさらに磨き上げていくべき資源としてベスト 5 を選定しました。今後、これらはデータベース化し適宜情報発信していきます。

第 1 回 地域資源の抽出	9 月 10 日～19 日(5 地区)	参加者 63 名
第 2 回 地域資源の評価	10 月 9 日	参加者 21 名
第 3 回 地域資源の共有	11 月 6 日	参加者 19 名

【地域資源ベスト 5】

熱海地区(1 班)	熱海地区(2 班)	泉地区
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 花(ジャカラダ、あたま桜、梅) ➤ 大湯を中心とした温泉 ➤ 錦ヶ浦からの景観 ➤ 花火大会 ➤ こがしまつり 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 錦ヶ浦 ➤ 海 ➤ 四季を感じる料理 ➤ 歴史・物語 ➤ 市民 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 歩く ➤ 泉公園・イベント ➤ 体験 ➤ 食 ➤ 動植物
伊豆山地区	南熱海地区	初島
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 伊豆山権現 ➤ 鎌倉古道 ➤ 走り湯 ➤ 十国峠 ➤ 北条政子 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 阿治古神社、花火、百八体 ➤ パラグライダー ➤ 南熱海の風景 ➤ 観光ガイド、人的資源 ➤ 干物 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 神仏 ➤ 碑 ➤ 伝説・歴史 ➤ 自然 ➤ 食

◇ 今後のワークショップのありかた

観光基本計画にある全員参加のまちおこしを実現するために、観光の視点によるまちづくりを、市民や二地域居住の住民の知恵と力を活用しながら進めていきます。さまざまなテーマによりワークショップを継続して開催し、効果や課題を共有することで、それぞれの立場からの活動・関与を促し、まち全体での観光まちづくりへ取り組む仕組みづくりを確立していきます。

(3) トライアルミーティングの推進

トライアルミーティングとは、観光基本計画をまち全体で具現化するための“最初の一步”となる取り組みです。観光まちづくりに市民や団体が積極的に挑戦し、行政が支援するスタイルを確立していきます。


心地いい熱海 づくりの相談 **トライアルミーティング**

- ・ミーティング ⇒ この指とまれ！
- ・“トライアル” ⇒ 失敗したって断念したって迷惑かけません。
- ・うまく行きそうだったら ⇒ 予算をとって事業化しましょう。
- ・熟度が増えてから事業化 ⇒ 成功率が更に高い
- ・役割分担 ⇒ 事務局仕事は市役所、主役は皆さん

まずは
バイオマスから

じょしりよく おんなのこだましい

女子力と女の子魂で！



心地いい熱海 づくりの相談 **で、何やるの？**

食用廃油を精製して
ディーゼルエンジンの車の
燃料にします→CO₂が出ません

↓

車を減らせないけど空気を
きれいにします

バイオマス

残飯を堆肥化して近隣市町村に
農産物を契約栽培

↓


熱海に農業は無いけどバイオマスで
農産物の地産池消

バイオマス

8号24、25ページ

「●●ごはん」
熱海って立地がいい＝流通もいい
立地がいい熱海で豊富な食材を
召し上がれ！

食の魅力づけ

「聞いてみる！学んでみる！やってみる！」精神で 

◇ トライアルミーティング スタート

熱海温泉ホテル旅館協同組合おかみ会は、持続可能な環境に配慮した観光地づくりを目指して、農林水産省の協力を得ながら「バイオマス」を切り口とした検討・勉強をスタートしました。今後、さまざまなグループ、団体のトライアルミーティングを支援し、住民参加による観光まちづくりを推進します。

【 担 当 】	熱海市観光戦略室 立見・大澤
【 T E L 】	0557-86-6372、6373
【 F A X 】	0557-86-6076
【 E-mail 】	kanko-senryaku@city.atami.shizuoka.jp